

温室の植物の如くする家庭は未だ自然のほゝるみを知らざる前に既に人生の涙に沈まねばならぬ。自然と人生とを美妙に結ぶ場所が家庭であり、家庭の花園の園守が母親である以上は、母の慈愛は霜を教へぬ温室の滋味ではなくて、霜を教へ雪を教へ霰を教へ曇を教へて而も永遠に温かき太陽の

温か味でなければならぬ。先覺ルーソーの言は此に響いて永遠の教を宣り、涙の人生はこゝに自然の微笑にはゝるむ。此の間に處する貴き父母の務は如何にルーソーによつて切々として説かれてあるか。そは稿を改めて我が共鳴の響きを傳へるやうにするであらう。

保育の目的及び躰方要旨

東京府女子師範學校附屬幼稚園

(東京府女子師範學校附屬幼稚園に於ては、さきに保育目的及幼児躰方要目につき編纂せられたが、實に一般の參考としても極めて有益なるものである。茲に同園主事日田權一氏の許可を得て、其の中、保育の目的及び躰方要目に關する部分を掲げる。)

保育の目的

る心情と習慣とを養ひ、以て家庭教育を補はんことを期せり隨て幼児保育上最も留意せる所は

本校幼稚園は單なる托兒所として幼児を收容するにあらず、積極的に幼兒の内部よりの自由の發展を誘導して、心身を健全に發達せしめ、善良な

第一 幼兒の内部よりの自由の發展を誘導せんことをすること。

なり。内部よりの自由なる發展を誘導するとは幼

兒の自發活動を尊重し之れを外部より故意に抑制助長することなく、幼兒を幼兒として自然の健全なる心身の發達を遂げしめんとするにあり。而して幼兒の自由を尊重するとは彼等を放任して、其我儘を増長せしめんとするものに非ざるなり。幼兒をして直に自由ならしむるの道は、彼等をして幼兒としての生活を實習せしめて、以て一步一步其の完成に近づかしむるにあり。彼等が自己を統御し得る範圍は、やがて彼等の自由の範圍なり。彼の自由は自ら爲すことによりて擴張せられ、他人に信賴することによりて縮少せらる。此の故に吾人の次に注意すべき處は

第二 幼兒の自ら爲し得ることは彼等をしてなましむべし。敢て助力すべからず。

されば吾人の爲すべき事は彼等の爲すべき事を爲し得るの機會を與て、爲すべからざる事を爲さんとするの機會を作らざるにあり。斯くの如くして

第三 幼兒の心身をして自然の健全なる發達

を遂げしむるにあり。幼兒をして幼兒として完成せしむるにあり。

斯くの如く幼兒の個人的要求を満足せしむると同時に彼等の性交性を啓發することを忘るべからず人類は社交的動物なり。幼少の時より孤獨を好まず。幼兒は常に幼兒の友を求む。幼稚園が家庭のなし能はざる處を補ふ點も亦茲にあり。家庭に於て父母長上の愛に猥れ專横を極めし幼兒も幼稚園に於ては、自己と同等の權利を主張する友を見出し、茲に對等の社交生活は始まる。茲に於て吾人の注意すべき所は

第四 幼兒をして相互に美しき共同生活を樂ましむべし。

美しき共同生活を樂しむ者は溫き優しき感情と美しき習慣とを要す。而して美しき習慣は外より與へらるゝ者に非ず。溫き優しき情緒の發露する者なり。而して溫き優しき情緒は、樂しき共同生活によりて始めて養はるべきなり。されば吾人は次に

第五 温き優しき感情を養ひて美しき習慣を

作らしめざるべからず。

斯くの如くにして、始めて家庭教育の補助となり幼稚園の存在も認めらるべきなり。

躰方要旨

躰方要目編纂の要旨は幼児の園内に於ける生活を實習することによりて、前章に述べたる二大目的、即ち幼児の個人的要求と社會的要求とを適當に満足せしめんとするにあり。

之れを稱して躰方といふと雖も外部より種々の習慣を強ひて押し付けんとするの意にあらざることは、茲に再説するまでもなし、吾人の主張する處は、幼児の内部の要求によりて彼等に必要なる種々の生活を實習せしめんとするにあり。而して其の實習の中に自ら彼等の自己統御の範圍を擴張し漸次自立自營の域に近づかしめ、且つ一方保姆及び朋友に對する美しき共同生活を樂しましめんとするにあり。而して幼児をして自ら進んで此の

實際生活を實習せしめんが爲めに、吾人の特に攻究する點は

第一 幼児の要求する機會を與へ又機會を作るにあり

總て新たなる境遇は自ら幼児に新なる要求を生ぜしむ。例へば始めて入園せる幼児は、先づ新らしき園内の様子を知らんとす。依て此の要求に投じて徐に園内を案内す。又樂しき五月の節句は彼等の期待する所なり。されば園内にも之れが營みをなし、長幼相助けて前より種々の之が準備をなし、又當日は樂しみて會合を爲すことによりて、温き社交的要求を充さしむ。又毎日の晝食は會食の樂の中に食事の仕方を實習し、隔月の身體検査は衣服の着脱に慣れしむ。又一組進みて、新に下組の幼児を迎ふことは、幼児に對する友情を喚起し更に保育満了期に近きて小學校に入るの希望燃ゆる時は、就學に必要な諸種の實習をなさしむることを得べし。されど機會既に過ぎ去りて彼等の内に希望消ゆることは又強ゆべからず。されば、

第一 機會既に過ぎ去りて企望消ゆれば強い
て實習を繼續すべからず

「再び機會の來るを待て復すべし。一時に多事は
彼等の堪ゆる處にあらず。故に

第三 一時に一事を實習せしむべし

二兎を追ふものは一兎を得ざるなり。複雑なる
ことはその儘彼等の學び得べきに非ず。必ず適當
に分解して或時期の間豫備練習をなすを要す。

第四 複雑なる實習は適當に分解して豫備練
習をなすべし

これ食事に箸の扱み方、衣服の着脱に釦の掛け
脱し、紐の結紮の練習を要する所以なり。されど
單なる練習は無味乾燥にして彼等の好まざる所な
り。宜しく之を遊戯によりて練習せしむべし、

第五 實習は總て遊戯によりて興味を附すべ
し

遊戯は幼兒の生命なり。總ての動物を通じて新
たなる生活法は皆遊戯によりて實習せらる。幼兒
の遊戯を好むも亦この新生活を收得せんが爲な

り。されば或る意味に於て兒童の生活は總て遊戯
なりといふを得べし。この故にこの遊戯の形によ
りて收得せしむることは最も大切なることなり。

編者附記 尙ほ同園に於ては、上述の目的と
要旨とに基き、幼兒の實際生活の豫備練習に
使用する爲同園獨特なる恩物を新たに製作し
及び選定せられて居る。(一)鼻紙及手拭。(こ
れ等によりて其の使用法及疊み方を授く)。

(二)食箸の使用に關する練習器。(これにより
て箸の使用法を練習し、食事の豫備練習をな
す。(三)衣服及履物の着脱に關する練習器。

これによりて、紐の結び方、釦の掛け方、ホ
ックの掛け方、コハゼの掛け方、靴紐の掛け
方、紐輪の掛け方を練習し以て普通の衣服及
履物の着脱を一通り練習することを得べし、

(四)風呂敷及バッグ。始め辨當を携帯し始む
る時辨當につき練習し後に保育滿了前に入學
準備として普通の風呂敷及バッグにより其の
使用法を練習す。)等が即ちそれである。